

強者の戦略

【基本は「いつ」「どこで」】

こんにちは、世界史の北林です。高3生の方は今頃夏の模試が返ってきて、新たに対策を考えたり軌道修正をしているころではないかと思います。学校や通っている塾・予備校の先生に必ず模試の結果をみせてアドバイスをもらってくださいね。

さて、解答作成へのワンポイントアドバイスです。改めて問題の確認です。

1 問目が

問題 大阪大学 2003 年

東南アジア大陸部（インドシナ半島）五か国の現在の領土はおおむね、18 世紀の動乱後、19 世紀初頭までに成立した政治地図を原型としている。この政治地図はどのようなものだったか、当時の三つの主要な王朝と現在の五つの国名をすべてあげながら説明しなさい。

（120 字程度）。

2 問目が

問題 大阪大学 1999 年

1902 年から 1922 年に至る日英関係の推移を、東アジアにおける諸列強の角逐と関連させながら、200 字程度で述べなさい。

強者の戦略

それでは簡単なアドバイスをしていきますね。

1 問目。

《ワンポイントアドバイス》

まずインドシナ半島の現在の五カ国がわかるかどうか。ここがわからないと話になりませんね。阪大は地図を頭に思い浮かべないと解けない問題がけっこうあるんです。まず五カ国。ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー(ビルマ)。

そして「18世紀の動乱後、19世紀初頭までに成立した政治地図」とあるので、ここでは王朝がわからないといけません。ラオスはほとんど入試にでませんよね。実際まとまった大きな王朝はありません。そして、カンボジアはあのアンコール=ワットで有名な「真臘」以降、皆さんが覚えるべき王朝はなかったですよね。実際タイのアユタヤ朝に圧迫されて大きな政権がありませんでした。

ということで、ベトナム、タイ、ミャンマーに絞って「18世紀の動乱、19世紀初頭」を確認しましょう。ベトナムは黎朝→西山朝→○朝と移り変わっていくのはわかりますね。タイは現在に繋がる王朝ができましたし、ミャンマーは後にインド帝国の一部となる王朝がでできます。さて王朝の名前はわかったでしょうか。

《解答例》

18世紀にミャンマーにコンバウン朝が成立して隣国タイのアユタヤ朝を滅ぼし、タイには現在に続くチャクリ朝が成立した。ベトナムでは南北に分かれた黎朝を倒した西山朝に変わり、阮朝が19世紀初頭に成立した。カンボジアとラオスは隣国から圧迫を受けて衰えた。(121字)

強者の戦略

2問目です。

《ワンポイントアドバイス》

主問が「1902年から1922年に至る日英関係の推移を」、副問が「東アジアにおける諸列強の角逐と関連させながら」なので、いつ何があったのかを知っていれば簡単に解ける問題ですね。センター試験で高得点をとれるくらいの力があれば大丈夫です。

角逐というのは争いや競り合いという意味ですから、そこを踏まえてみていきましょう。

- ・ 1902年といえば、日英同盟。1900年～01年の義和団事件の際に兵を多くさけなかったイギリスは、日本に協力を求め、日本は出兵します。このときに日本は非常に規律正しい軍隊だったそうで、イギリスからは信頼に足る国であると見られたようです。これが翌年の日英同盟に繋がります。もちろんロシアの南下に対抗するためです。また日英同盟があったからこそ日露戦争で日本が踏ん張れたのは想像がつくと思います。
- ・ 第一次大戦中、日本は日英同盟を理由に参戦します。
- ・ ただし強くなった日本は、警戒され始めます。日本の中国進出を警戒するアメリカ・イギリスの戦後の対応（ワシントン会議の四カ国条約など）は外すことはできませんね。1922年ですから、四カ国条約で日英同盟を解消することになります。

こうした簡単な流れが分かれば、解答の筋道ができるかなと思います。いかがでしょう。

《解答例》

イギリスは極東へ進出を図るロシアを警戒して、1902年に日英同盟を結成、「光栄ある孤立」を捨てた。1904年に勃発した日露戦争ではイギリスは日本を支援、その後も同盟は維持されたが、1914年日本は日英同盟を理由に第一次世界大戦に参戦、中国大陸の拡大を図った。大戦後、日本の拡大を警戒したアメリカはワシントン会議を開き、四カ国条約により日英同盟は精算され、九カ国条約で日本は中国大陸での権益の大半を失った。
(202字)